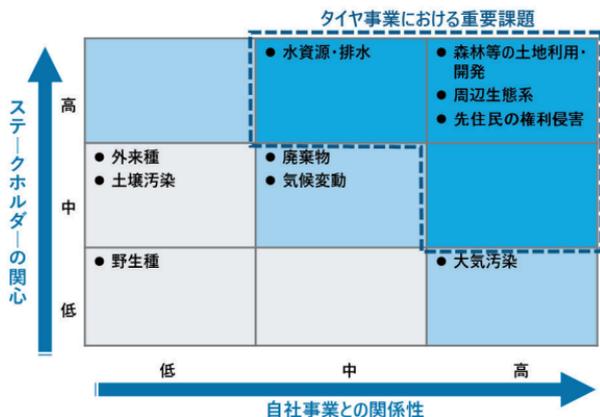




《将来に向けた取組方針》

住友ゴムグループは「生物多様性の保全」を解決すべき課題の1つとして認識し、取り組みを行っています。2018年には「持続可能な天然ゴム方針」を策定し、天然ゴム生産地域の森林破壊防止や、労働環境における人権問題などへの取り組んでまいりました。2023年11月にTNFDフォーラムへ参加、2023年12月にTNFD Adopterに登録し、今後はTNFD提言に沿った開示を実施し、自然関連課題の適切な管理に取り組みます。私たちのPurpose「未来をひらくイノベーションで最高の安心とヨロコビをつくる」実現のため、生物多様性・自然領域においても、ステークホルダーの皆様と連携しながら活動を推進してまいります。

《生物多様性に関する重要課題（タイヤ事業）》



縦軸「ステークホルダーの関心」、リスク重要度評価結果を横軸「自社事業との関係性」とし、「先住民の権利侵害」をテーマに加え、タイヤ事業に関する自然関連リスクをマテリアリティ・マップに整理しました。

《各リスクにおける地域性分析》

	関連する重要課題	地域性分析の手法
上流	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 森林等の土地利用・開発 ➢ 周辺生態系 ➢ 先住民の権利侵害 ➢ 水資源・排水 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価単位：天然ゴムの加工場 ➢ 使用ツール：IBAT/Aqueduct/LandMark等 ➢ 評価方法：加工場周辺の生物多様性重要地域の有無・水ストレス・先住民の居住状況等を評価
直接操業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 水資源・排水 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価単位：タイヤ事業の製造拠点 ➢ 使用ツール：Aqueduct/Water Risk Filter/IBAT ➢ 評価方法：拠点周辺の水質・水ストレス・生物多様性重要地域の有無を評価
下流	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 水資源・排水 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価単位：タイヤ事業の販売国 ➢ 使用ツール：Water Risk Filter ➢ 評価方法：販売国における水資源管理に関する規制リスクを評価

重要課題を上流・直接操業・下流のバリューチェーンの段階毎に整理し、拠点毎のリスクを評価することでホットスポットを特定し対応を進める計画です。